

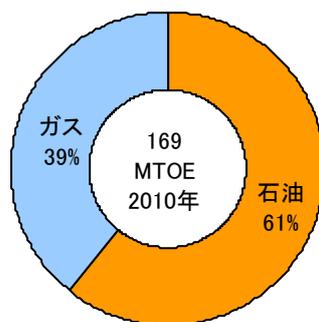
4-1 サウジアラビア

1. サマリー

1. エネルギー事情

- (1) 一次エネルギー供給量 (2010年) : 169 百万 TOE (日本の 0.37 倍)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 (2010年) : 6.17TOE (日本の 1.71 倍)
- (3) エネルギー自給率 (2010年) : 318%
- (4) エネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 446.0 百万 CO₂ 換算 ton (日本の 39.0%)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO₂ 排出量 (2010年) : 16.3 CO₂ 換算 ton (日本の 181.2%)
- (6) エネルギー源別可採年数 (2011年末) : 原油 65.2 年、天然ガス 82.1 年

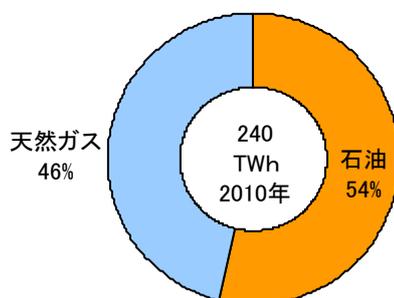
一次エネルギー供給構成 (2010年)



COUNTRY: Saudi Arabia

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

発電電力量構成 (2010年)



COUNTRY: Saudi Arabia

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

- 石油鉱物資源問題最高評議会（SCPM、議長は国王）：石油天然ガス・鉱物資源政策全般を司り、国営石油会社 Saudi Aramco の経営方針の最終決定権を有する。また天然ガスなど石油以外の分野での外国企業との契約締結権限も有する。
- 石油鉱物資源省：石油・天然ガス、その他鉱物資源に関連した政策を策定し、Saudi Aramco を始めとするこの分野における国営企業の監督に当たる。
- Saudi Aramco：石油・天然ガスの開発、生産から精製・販売までの操業を行う。近年は石油化学分野や石油製品のトレーディング、ベンチャー投資等にも進出してきた。

(2) 基本政策

- 国家財政の大半を石油収入に依存しているため、国家財政安定のために適切な石油価格の維持を目指している。但し、高すぎる石油価格は需要の後退、石油代替エネルギーの開発促進などを引き起こすため、一貫して石油価格の安定化を志向している。
- 最近では、増加を続ける国内エネルギー需要の抑制を図るための省エネ政策にも強い関心を示すようになってきている。

(3) 最近の動向

- 2012年6月16日 Nayef 皇太子が薨去した。その2日後に Salman 国防相が皇太子に就任した。サウジアラビアでは、2011年10月に Sultan 皇太子が薨去したばかりであり、半年あまりの間に2回も皇太子が変わったことになる。王室の主要構成メンバーの高齢化が続いており、今後、皇位継承が円滑に行くかどうかという問題に内外の関心が集まっている。
- そうした中、Abudallah 国王は「自己都合」で内務相の辞任を申し出た Ahmad 王子の後任に、前々内務相で前皇太子の Nayef 王子の子息である Muhammad 王子を任命した。この交代の背景にどのような要因があるのかは不明だが、内務相のような要職に若い(53歳)第三世代の王子が任命されたことは、今後の王位継承を展望する上でも重要な出来事であると見られている。

3. 日本とのエネルギー分野における関係

- 資源エネルギー庁「資源・エネルギー統計年報」によると、サウジアラビアは我が国の最大の原油輸入先である(115.6万b/d、シェア32.4%、2011年、中立地帯を含む)。

2. 主要エネルギー指標

(2010年)

(1)	一次エネルギー供給量	169	百万 TOE
(2)	1人当り一次エネルギー供給量	6.17	TOE/人
(3)	GDP 当り一次エネルギー供給量	0.47	TOE/千\$
(4)	エネルギー自給率	318	%
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	446.0	百万 CO ₂ 換算 ton
(6)	1人当りエネルギー起源 CO ₂ 排出量	16.3	CO ₂ 換算 ton/人
(7)	一次エネルギー供給構成	石炭	0 %
		石油	61 %
		ガス	39 %
		原子力	0 %
		水力	0 %
		再生可能エネルギー等	0 %
(8)	エネルギーの輸入依存度	-218	%
(9)	石油の輸入依存度	-359	%
(10)	輸入原油の中東依存度	-	%
(11)	原油輸入先	第1位	-
		第2位	-
		第3位	-

(出所) (1)～(4)および(7)～(9)は IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries, 2012 Edition

(5)および(6)は IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion, 2012 Edition